

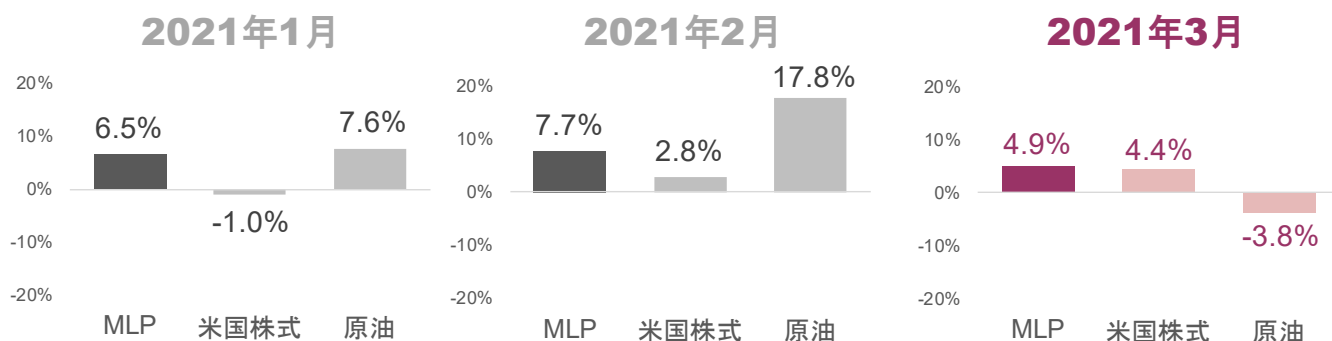
当月のS&P MLP 指数の動き

3月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比+4.9%と6か月連続での上昇となりました。

上旬は、米国におけるワクチン接種普及や追加経済対策による景気の回復期待などを背景に、長期金利が上昇する中、株式市場ではハイテク株が大きく売られる場面がみられました。しかしながら、MLPについては、月初のOPECプラス会合で4月以降の減産規模が維持され、原油価格が上昇したことなどから、上昇基調となりました。ただし、その後は、欧州での新型コロナウイルスの感染者数増加などが嫌気され、原油価格が下落したことなどから、MLPも軟調となりました。

過去3カ月の主要指標の月次騰落率

(米ドルベース、トータルリターン)



主要指標の動き

MLP: S&P MLP 指数、米国株式: S&P 500 種指数、原油: WTI

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	当月末	前月末	3ヶ月前月末	前年末	前月末比	3ヶ月前月末比	前年末比
	2021/3/31	2021/2/28	2020/12/31	2020/12/31			
S&P MLP 指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	3,812.39	3,632.65	3,165.76	3,165.76	4.9%	20.4%	20.4%
プライスリターン	963.00	917.90	818.13	818.13	4.9%	17.7%	17.7%
S&P 500種 指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	8,238.48	7,892.81	7,759.35	7,759.35	4.4%	6.2%	6.2%
プライスリターン	3,972.89	3,811.15	3,756.07	3,756.07	4.2%	5.8%	5.8%
S&P 500種 エネルギー株指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	734.70	714.75	561.47	561.47	2.8%	30.9%	30.9%
プライスリターン	369.89	360.19	286.14	286.14	2.7%	29.3%	29.3%
S&P 米国 REIT 指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	1,489.43	1,426.22	1,369.91	1,369.91	4.4%	8.7%	8.7%
プライスリターン	330.89	318.52	306.79	306.79	3.9%	7.9%	7.9%
米国ハイイールド債 (ICE BofA 米国ハイイールド・インデックス (米ドルベース))							
トータルリターン	1,511.97	1,509.40	1,498.42	1,498.42	0.2%	0.9%	0.9%
プライスリターン	76.72	76.95	77.10	77.10	-0.3%	-0.5%	-0.5%
米国10年国債利回り							
	1.74%	1.40%	0.91%	0.91%	0.34	0.83	0.83
原油 (WTI) 米ドル/1バレル当たり							
	59.16	61.50	48.52	48.52	-3.8%	21.9%	21.9%
天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり							
	2.61	2.77	2.54	2.54	-5.9%	2.7%	2.7%
米ドル (対円)							
	110.72	106.57	103.25	103.25	3.9%	7.2%	7.2%

※「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

当月の出来事いろいろ

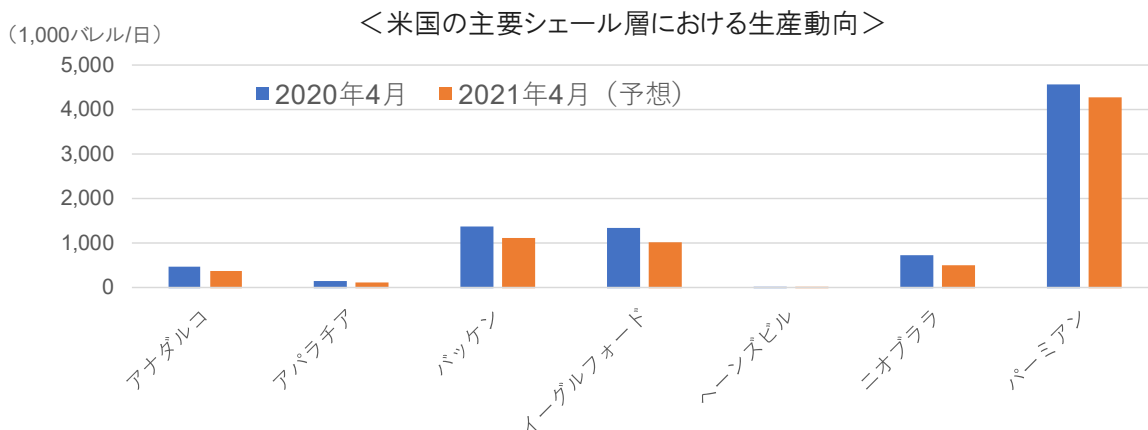
- 4日に開催されたOPEC(石油輸出国機構)加盟国と非加盟の産油国からなるOPECプラスの会合では、4月以降の原油の協調減産について、現行の減産規模をほぼ維持することを決定したほか、サウジアラビアが独自の追加減産を4月以降も続けるとした。これに加え、米国において、追加経済対策法案の成立期待や新型コロナウイルス向けのワクチン普及に伴う景気拡大期待が広がったことなどから、原油価格が上昇し、5日にWTI原油先物価格が1バレル=66.09米ドルと2019年4月以来の水準を付けた。しかしながら、その後は利益確定売りが広がったことなどから、下旬にかけて下落基調となった。IEA(国際エネルギー機関)が原油需給のひっ迫の持続性に懐疑的な見方を示したに加え、欧州において、新型コロナウイルス感染拡大の第3波への懸念が広がったことなども売り圧力につながった。
- 米国株式市場は、高PER(株価収益率)のハイテク株については大きく下落する場面がみられたものの、景気拡大期待を背景に景気敏感株を中心に株価が上昇し、NYダウ工業株30種平均およびS&P500種が史上最高値を更新する展開となった。

今後の注目点

- 4月から、2021年1-3月期の決算発表シーズンに入る。これに先立ち、MLP各社から発表される分配金の動向に市場の注目が集まる。

シェールオイルの生産動向

足元の原油価格の上昇を受けて、米石油会社は掘削リグの稼働数を徐々に増やしているものの、投資家からの債務圧縮圧力などから、新規の油井開拓については控えているようです。EIA(米エネルギー情報局)が3月に発表した月報によると、2021年4月の米国の主要シェール層からのオイル生産量は、前年比、前月比ともに減少する見通しとなっています。

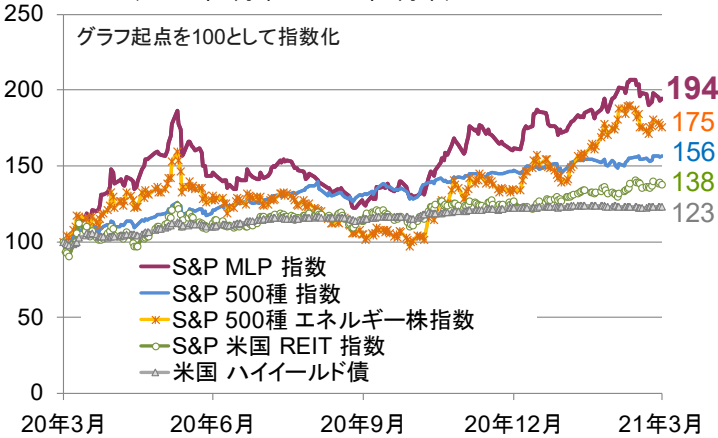


出所: EIA「Drilling Productivity Report」(2021年3月15日発表)

※上記グラフ・データは過去のものおよび予想であり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

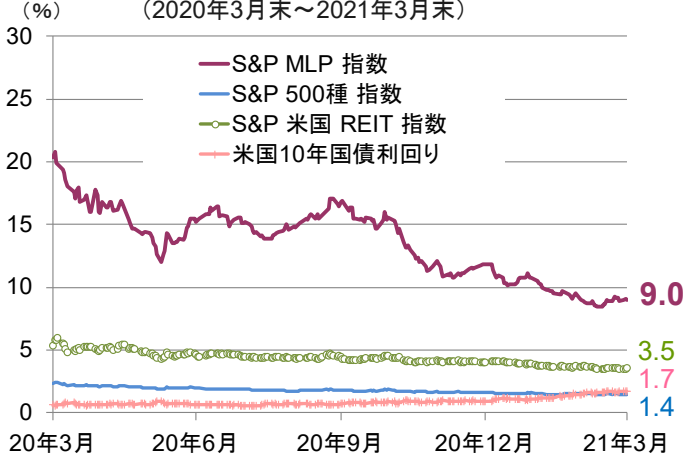
■ 過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン)

(2020年3月末～2021年3月末)



■ 過去1年の各資産の利回り

(2020年3月末～2021年3月末)

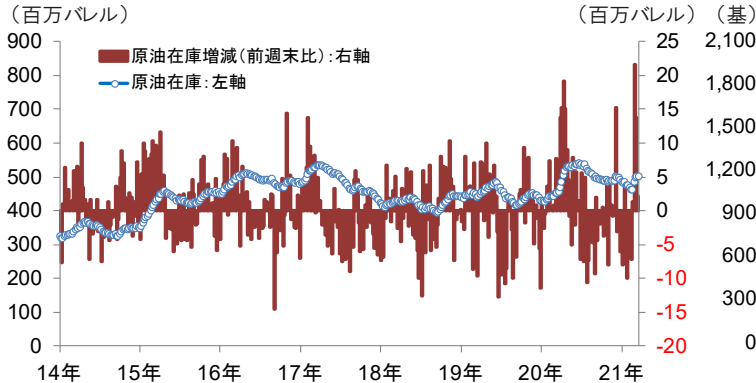


※ 各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。

※ 各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

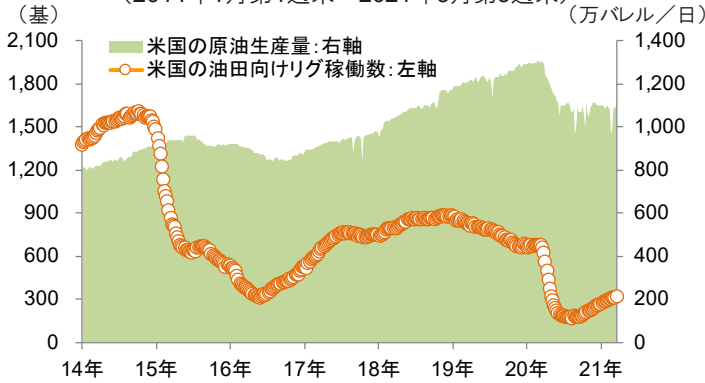
■ 米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2021年3月第3週末)



■ 米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

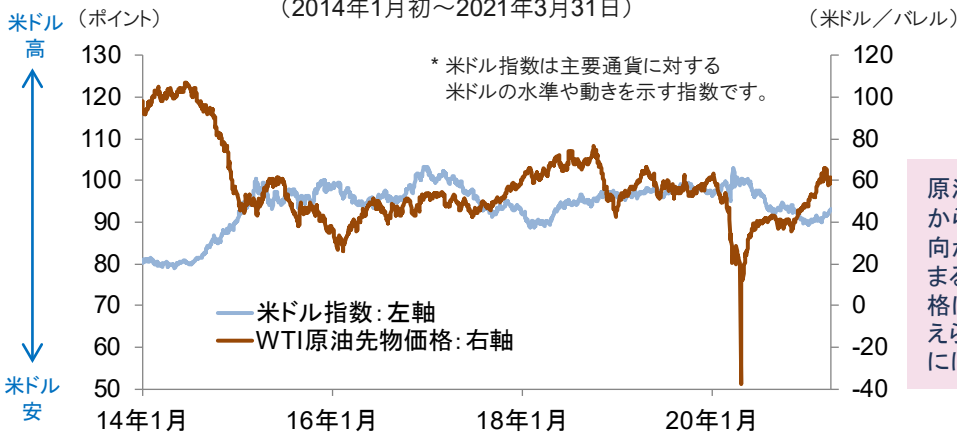
(2014年1月第1週末～2021年3月第3週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給悪化懸念(改善期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給悪化懸念(改善期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■ 原油価格と米ドル指数*

(2014年1月初～2021年3月31日)



* 米ドル指数は主要通貨に対する米ドルの水準や動きを示す指数です。

原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル安基調が強まる場合、割安感などにより、原油価格に押し上げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。